

静岡大学 同窓会会報

No. 30

発行所
静岡大学理学同窓会
静岡市駿河区大谷836
静岡大学理学部内
TEL054-237-1111(代)
会長 浅野 安人

元気な理学部めざして

理学研究科長・理学部長

塩尻 信義



増田俊明前理学研究科長・理学部長のあとを受け、昨年10月より重職を拝命しました。私自身は、1978年3月生物学科卒業（理74B）のOBで、1983年4月に赴任以来、理学部に在籍しておりますので、30年以上静岡大学にお世話になっていくことになると思います。理学部のこれまでの歴史をみてみると、地球科学科設置、生物地球環境科学科設置・廃止、理工学研究科設置、創造科学技術大学院設置などいろいろありましたが、今がもっとも変化の激しい時期にあたっていると思います。そんな中、改革のキーワードに踊らされがちではあります。元気な理学部として発展しつづけることを目標にしております。

理学部の現況について説明します。静大に限りませんが、大学は組織改革の嵐

と云っていいかと思えます（本質からずれた面も多々ありますが）。理学部教員は学部所属から理学研究科所属になったのもつかのま、次年度からは、教員所属組織と教育研究組織の全学的な分離にともない、理学部全てのメンバーが教員所属組織として学術院・理学領域に、教育研究組織としてはほぼ全てのメンバーが理学部と新大学院「総合科学技術大学院」理学専攻（修士・博士課程）、電子工学研

究所、グリーン科学技術研究所に所属し、活躍することになります。名称や所属組織はきわめて複雑ですが、基本的には理学本来の教育研究が行えるものとなっています。ただ、2年後には、新大学院も創造科学技術大学院と合わせ改組を検討中です。

また、教育学部の新課程（100名定員・教員免許を要しない課程）廃止にともない、そのうち15名を理学部に受入れるべく議論を行っております。現時点では、基礎科学の学識と問題解決能力に加え、さらにイノベーションとグローバルな視点をあわせもつ人材を育成する新コース「創造

理学部の教員はかなり入れ替わっております。この3月には、数学科清水扇丈先生、物理学科青山昭五先生、溜池健博先生が退職予定です。清水先生は京都大学に転出予定ですが、清水先生はじめ理学部から有力大学へ転出された方が最近6、7名あり、これは理学部の現メンバーに実力者がそろっていることを示していると思います。文科省あるいは学術振興会の科研費の採択は、学内6部局のなかでもっとも採択数が多いという実績がありますし、理学部教員の研究成果はアメリカ科学士院紀要やJACS等一流誌に論文が掲載されています。このように、改革で忙しい面もありますが、理学部の活力をあげる材料は十分にあります。同窓会からも、さらなる支援を期待しておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

◆参加者 400人（予定）
◆講演 東京大学大学院教授 須藤 修氏（人文12回経済）
「ICTイノベーションと社会の変化、そして大学の役割」
◆演奏 静岡大学教育学部助教 長谷川 慎氏（生田流箏曲演奏家）
「心にしみる、清冽な筆の調べ」
◆日時 11月下旬に開催されます
静岡地区静大祭に合わせ、理学同窓会の総会及び科学講演会を開催します。
日時 平成27年11月21日（土）13時より
会場 理学部A棟2階大会場 会議（A209）
総会 13:00～13:30
議題 理学部・理学系大学院の教育支援、その他について
科学講演会 14:00～15:30
詳細は、同窓会のHPに掲載します。
懇親会 16:00～17:30
会費 1000円
理学同窓会は、各卒業年度の同窓会開催のお手伝いをします。左記の同窓会事務局までご連絡ください。

ドラえもんのかばん

理学同窓会長 浅野 安人



静岡大学理学部も、今年で設立50年を迎えました。大学のおかれている環境も変化し続けています。今年度から、アジアブリッジプログラムが始まり、東南アジアの各地から優秀な学生

を呼び寄せようとしています。これからは、狭い日本の中の静岡という地域の中で考えるのではなく、世界を相手に交流を深めていかなければならない。そういうときがきているのだと実感せざるを得ません。

さて、わが国では平成25年4月に新たな海洋立国を目指すために海洋基本計画が見直されました。そこで世界をリードする海洋基盤技術の開発、新海洋産業の振興・創出などが謳われて

いることを踏まえ、内閣官房総合海洋政策本部事務局を中心に関係省庁において各種の取り組みが行われ、現在その第一ステップが実施されています。ここでは地球環境ならびに海底資源の調査・探掘、洋上風力発電、潮流発電、海運業の近代化、養殖漁業促進など広い分野での大きな発展が計画されています。これらの計画を実現するためには、海洋・海底資源等を含めた法制度の見直し、人材育成

および各種技術の開発、なかでも海洋からのさまざまな情報をセンシングする技術が必須で、日本では北海沿岸の諸国に比べて、産業分野での各種の機器・装置の開発が遅れています。これらの機器類に必要な技術は、海水などの腐食環境に耐えることや、高い水圧に耐える構造にすることの他に、信号伝送方式、給電方式、メンテナンス方式などです。

現在の最大のエネルギー源である石油の採掘も、中東の内陸部から、北海・カリブ海・ブラジル沖などより深い海底油田の開発へと移りつつあります。残念な

ことに、日本ではオイルショックの後で、多くの企業が油田開発機器類の製造・開発から撤退してしまいました。そのため、深海の石油掘削・採取の技術は、北海油田の中心であるスコットランドやノルウェーに先鞭をつけられてしましました。また、造船業界もLNG船やLPG船の技術を韓国に供与してしまつたため、海上での船舶関連設備は韓国の企業が主として供給しています。昔は、日本の企業も多く、鉦山を所有し、その採掘技術も優れていましたが、いまでは海底の鉱物資源の採取にしても、ごく一部の企業

退任教員

からの挨拶

数学専攻 教授

清水扇丈



静岡大学理学部・理学研究科には、平成20年4月1日から7年間にわたりお世話になりました。理学研究科のスタッフは、自由な発想と学問への熱意に溢れて、研究環境として大変恵まれておりました。男女共同参画として女性が職場で働くことに對して、社会的に随分配慮されるようになり有難いことと存じます。が、静岡大学理学研究科は男女共同参画の観点から、そのようなことを感じさせない位に働きやすい職場でした。

前任は静岡大学浜松キャンパスの工学部でしたが、理学部で数学の講義を行うようになり、理学部の学生は、「何故か」ということを強く意識していることを実感しました。これは現象のより深い理解と新しい応用に結び付きます。数学科の学生に限らず、他学科の学生の理系基礎の講義でも同様でした。

この7年間に卒業講義の学生29名が卒業、修士課程の学生は本年度の見込み1名を合わせて3名が修了しました。そして本年度創造科学技術大学院の学生1名が博士の学位を授与できる見込みです。この学生と

は、学部卒業講義から6年間に渡り研究を共にしました。私の専門は偏微分方程式論ですが、解析ではとりわけ複雑な手計算により新たな知見を得ることが多くあります。長い時間をかけて計算を遂行し、私の気づかなかった結果を得ることができるようになったこと、また後輩の学生へ先輩として指導する姿を通して、学生の成長を目の当たりにしたことは大きな喜びの一つでした。



■学歴 2012年3月 東京大学大学院理学系研究科 博士課程 修了 博士(理学)取得

■職歴 2012年4月 日本学術振興会特別研究員 (DC2)、1998年4月 日本学術振興会特別研究員 (PD)、2000年9月 東北大学総合学術博物館助手、2007年4月 東北大学学術資源研究公開センター(総合学術博物館) 助教を経て、2014年8月静岡大学大学院理学研究科地球科学専攻准教授

■専門分野 地球環境史学、堆積学、地球化学。地質時代の環境変動のダイナミクスを、陸上・深海の地層から読み解く研究を行っております。特に、日射量変動や火山活動、地殻変動に伴う、大気CO₂動態やモンスーン、大陸風化、海洋無酸素化や海洋酸性化、津波などが生態系や物質循環に与える影響、及びそれら周期性の解明を目指しています。

■近況 静大に来て早一年が経とうとしていますが、着任当初から戸惑いばかりですが、皆様にご指導頂きながら、充実した毎日をご過ごさせて頂いております。微力ではありますが、静岡大学の発展のために精進して参ります。今後とも宜しくお願い致します。

■学歴 1996年3月 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、博士(理学)取得

■職歴 1994年4月 日本学術振興会特別研究員 (DC2)、1998年4月 日本学術振興会特別研究員 (PD)、2000年9月 東北大学総合学術博物館助手、2007年4月 東北大学学術資源研究公開センター(総合学術博物館) 助教を経て、2014年8月静岡大学大学院理学研究科地球科学専攻准教授

■専門分野 地球環境史学、堆積学、地球化学。地質時代の環境変動のダイナミクスを、陸上・深海の地層から読み解く研究を行っております。特に、日射量変動や火山活動、地殻変動に伴う、大気CO₂動態やモンスーン、大陸風化、海洋無酸素化や海洋酸性化、津波などが生態系や物質循環に与える影響、及びそれら周期性の解明を目指しています。

新任教員

からの挨拶

地球科学科

助教 池田昌之



地球科学科

准教授 佐藤慎一

■学歴 2011年3月 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、博士(工学)取得

■近況 8月に赴任して、すぐ数

日後に卒論生が配属されました。実験室が段ボールで埋め尽くされた状態から始まりましたが、ようやく作業ができる程度にまで落ち着きました。今年の春からは、浜名湖に通ってアサリの成長様式や生殖周期、捕食痕などを卒論テーマとして取り上げる予定です。

化学専攻(附属放射科学 研究施設業務) 講師 近田拓未



■学歴

2011年3月 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、博士(工学)取得

■職歴

2008年4月 日本学術振興会特別研究員 (DC1)、2011年4月 東京大学大学院工学系研究科附属総合研究機構 助教、2014年4月から静岡大学大学院理学研究科化学専攻 講師

■専門分野 先進エネルギー化学、放射化学、材料化学。水素同位体を用いた次世代エネルギーシステムにおける材料研究として、金属やセラミックス中の水素移行挙動や化学挙動について研究しています。

現在、金属材料の水素脆化抑制、水素漏洩の低減を目的としたセラミックスを主要テーマにしています。

ます。

■近況

赴任直後から大教室での講義など、新天地で手探りの部分もありましたが、次第に研究環境、生活環境ともに整ってきました。静岡は気候もよく、食べものもとても合っていて快適に過ごしています。

施設の特徴を活かしながら、良い研究と教育をして理学に貢献できたらと思っています。

まだまだ至らないところもあるかと思いますが、今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

生物学科

講師 成川 礼



■学歴

2006年3月 東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士(学術)

■職歴

2006年4月 日本学術振興会特別研究員、2007年4月 東京大学大学院総合文化研究科助教

2014年4月 静岡大学大学院理学研究科講師

■専門分野 光生物学・植物生理学。光合成原核生物・シアノバクテリアを対象として、光応答戦略を分子レベルから細胞レベルまで研究しています。最近、その知見を生かした応用研究として、細胞を光で制御するオプトジェネティクスや細胞内分子動態を可視化する分子イメージングに資する光スウィッチ・蛍光プローブの開発も行っています。今後は、真核藻類まで生物材料を広げ、個体・生態レベルまで解析の枠を広げることで、光合成生物の光応答戦略を俯瞰的に理解したいと考えています。

■近況 静岡大学着任後、周りの先生や学生さんに色々と助けていただいたお陰で、教育・研究の口々を満喫できています。前任校の東京大学教養学部での経験を生かして、静岡大学での教育・研究に取り組んでいく所存です。今後ともよろしくお願ひ致します。

■趣味 読漫画、邦画鑑賞、飲酒、双子育児。自宅に漫画が2500冊強あります。お勧めの漫画：イムリ、刻刻、ヒストリエなど。小説では上橋菜穂子さんの作品が好きです。

化学科 准教授 松本剛昭

■学歴 2001年3月 東北大学大学院理学研究科化学専攻 博士課程修了 博士(理学)取得

2001年4月 分子科学研究所 博士研究員、2002年4月 日本学術振興会 特別研究員PD(分子科学研究所)、2002年10月 姫路工

■近況 半年前に静岡市にやってきました。真先に感じたことは、出会ってお話をすると方々皆さんが温厚で物腰が柔らかいことでした。まぶしい陽射しが降りそそぐ温暖な気候も相まって、一瞬のうちに静岡が大好きな街になりました。

着任して間もなく、講義を二つと学生実験を一つ担当することになりました。内容や手順を精査する作業は思いのほか大変で、壁にぶち当たることがしばしばあります。自分の教え方で果たして学生さんは育ってくれているのか、悩むことも多々あります。しかし、教えるための準備機会を持つことで自分自身が育てられていると感じるのもまた事実であり、もしかしたら、これこそが教育なのかも知れないと考えている昨今です。

あと二ヶ月もすると、私にとって研究室一期生となる学生さんが配属されます。

■学歴 2001年3月 東北大学大学院理学研究科化学専攻 博士課程修了 博士(理学)取得

2001年4月 分子科学研究所 博士研究員、2002年4月 日本学術振興会 特別研究員PD(分子科学研究所)、2002年10月 姫路工

■近況 半年前に静岡市にやってきました。真先に感じたことは、出会ってお話をすると方々皆さんが温厚で物腰が柔らかいことでした。まぶしい陽射しが降りそそぐ温暖な気候も相まって、一瞬のうちに静岡が大好きな街になりました。

着任して間もなく、講義を二つと学生実験を一つ担当することになりました。内容や手順を精査する作業は思いのほか大変で、壁にぶち当たることがしばしばあります。自分の教え方で果たして学生さんは育ってくれているのか、悩むことも多々あります。しかし、教えるための準備機会を持つことで自分自身が育てられていると感じるのもまた事実であり、もしかしたら、これこそが教育なのかも知れないと考えている昨今です。

みんなで新しく実験装置を立ち上げ、ゼミで熱い議論を交わし、時には研究を離れて遊びに興ずる。そんな研究室生活を営みながら、毎日は、最先端の研究成果を静岡から世界に発信できればと願っています。

化学専攻

講師 守谷 誠



■学歴

2006年3月 東京工業大学大学院理工学研究科 応用化学専攻 博士後期課程修了
学位：博士（工学）

■職歴

2006年4月 東京工業大学大学院理工学研究科 研究補佐員
2006年5月から2007年3月 ミュンスター大学（ドイツ）有機化学研究所 博士研究員

2007年4月から2014年3月 名古屋大学エレクトロニクス研究所 助教
2011年4月から2014年3月 JSTさががけ「新物質科学と元素戦略」研究員（兼任）
2014年4月から静岡大学大学院理工学研究科 講師

■専門分野

材料科学、錯体化学。分子の自己集積化を利用した高次構造の構築と機能発現に関する研究。イオン伝導性材料の 開発と次世代二

次電池向け固体電解質への応用を主目的とした研究に取り組んでいます。

■近況

2014年4月の着任から一年が経過しました。まだまだ慣れないことや戸惑う事は多いですが、理学部の皆様の温かいご指導やご支援のもと、独立した研究環境を頂くという非常に恵まれた立場を頂き、充実した日々を送っております。今後ともよろしく願っています。

物理学専攻

講師 森田 健
（もりた たけし）



■学歴

2006年3月 京都大学大学院理学研究科 物理学・宇宙物理学専攻 博士課程修了 博士（理学）

■職歴

高エネルギー加速器研究機構、京都大学基礎物理学研究所、タタ基礎研究所（インド、ムンバイ）、クレタ大学（ギリシャ）、クレタ島、ケンタッキー大学（アメリカ）、レキシントン（ポスドクを経て2014年8月に静岡大学に着任）

■専門分野

素粒子理論。特に超弦理論を中心に、重力の量子論的な性質を研究してきました。最近ではブラックホールやゲージ理論の熱力学的な性質や相転移現象、非平衡現象について研究してお

り、こういった研究を通して謎に満ちた量子重力の解明につながればと考えています。

■近況

2014年8月に静岡に着任しました。これまではポスドク研究員としてインド、ギリシャ、アメリカで暮らしてきました。世界のいろいろな街で生活し、いろいろな人と知り合うことが出来たのはとても良い経験になりました。静岡大学ではそういった経験も活かしながら学生さん達と向かい合っていけたらと思います。

メタンハイドレート鉱床の大半は、低温の深海の海底直下にある堆積物に閉じ込められている。その総埋蔵量は膨大で、すべての大陸の沿岸から沖合いのいたるところにメタンハイドレート鉱床が潜んでいることがわかってきた。最新の見積もりによると、世界中の海底のメタンハイドレートはその炭素量で石炭、石油、天然ガスすべての埋蔵量に少なくとも匹敵する。もっとも、その生成の由来を詳細に調査されたハイドレートはまだない。

大学では早速講義を担当させてもらい、研究一辺倒だったポスドクの時は、また違った充実感のある毎日を送らせてもらっています。今後ともみなさんと共に理学部を盛り上げていけたらと思います。

メタンは二酸化炭素の20倍の温室効果を持つ。海洋の温暖化によってハイドレートの状態が不安定になり、メタンが海中から大気中へと放出されれば、気候変動を大きく加速しかねない。メタンハイドレートはエネルギーの注目株なのか、それとも環境問題の新

たな心配の種となるのか。科学者たちは懸命に答えを見つけてようとしている。

メタンは井戸レートの約1%は実は陸地にあり、両極付近の永久凍土の層にサンドイッチされている。残りのほとんどは、水深三メートル以上の低温・高圧下のいわゆるハイドレート安定領域に存在する。この領域では、海底下千メートルまでの堆積層に固体のメタンハイドレートが膨大なネットワークを形成して埋まっている。それよりも深部の堆積層になると、メタン

技術ニュース

海洋エネルギー資源
～メタンハイドレート～

は深層の地球内部の熱で温められて、気体としてのみ存在する。ハイドレートは砂岩層の作る間隙中に、他の場所では期待の事象として存在している。メタンハイドレートは、つねに生成しているが、どんな形になるかは予想できない。特定の場所では特定の状態で優勢になる理由はまだ分かっていない。
二〇一三年三月には日本の地球深部探査船

「ちきゅう」が史上初めて海底のハイドレートから天然ガスを取り出した。「ちきゅう」はハイドレートに富む堆積物を掘削した後、周辺から海水を汲み出した。海水が除去されたことで局所的に圧力が下がり、これに伴ってメタンが堆積物中の水の格子構造から解離し、5日間にわたって坑井からメタンガスが流出した。

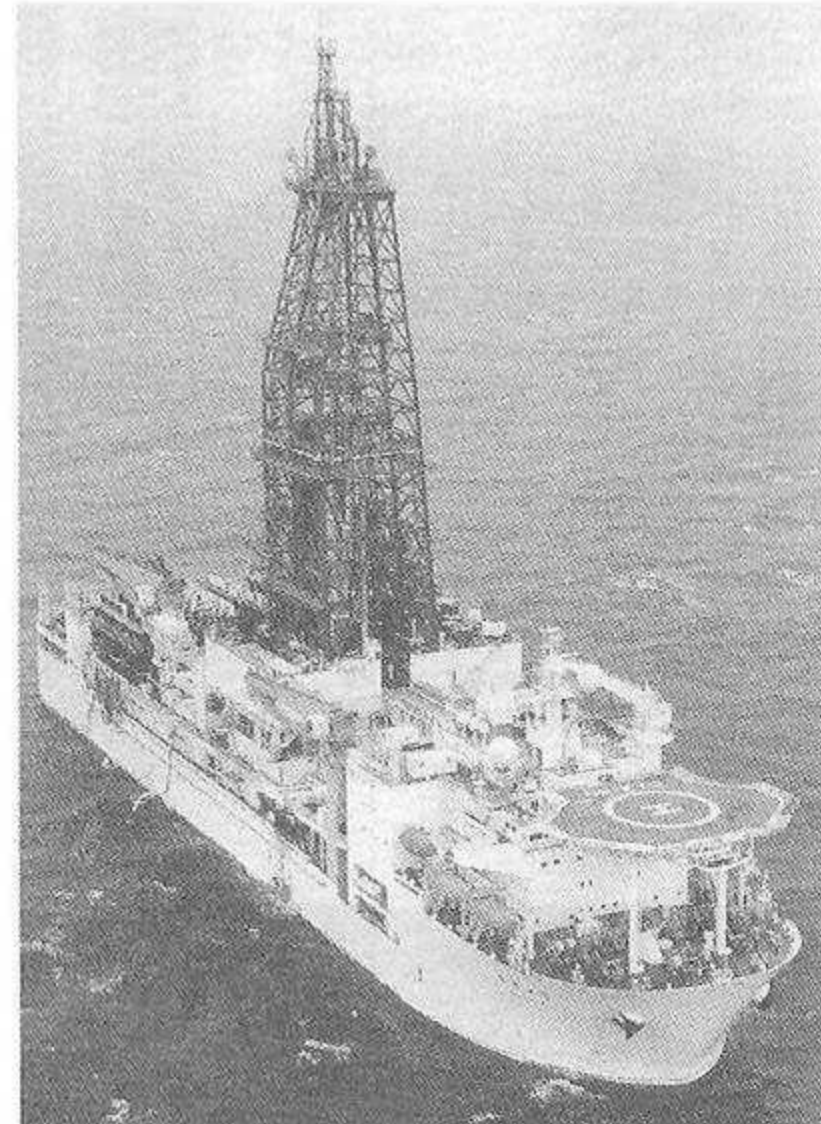
メタンハイドレートとは水分子の立体的網目構造中の空隙にメタンが取り込まれた包接化合物の一種で、水に似た性状をもつものである。メタン、プロパン、二酸化炭素、酸素、窒素等の低分子量の気体の場合を含めガスハイドレートと呼ぶことも多い。

ハイドレート自体は、十八世紀後半から十九世紀初頭に実験室で発見された。その後一九三〇年代にパイプライン内でのハイドレート生成による輸送障害という石油産業における好ましからざる現象への対応という、いわば実利的目的がひびきかえり、研究者層の広がり、研究内容の深化が図られた。一九六〇年代以降、シベリアなどの永久凍土地帯で、ハイドレートがガス生産に寄与してい

たものと推定されているが、資源としてのハイドレートという捉え方は比較的新しいものである。一般には、水とメタン等の低分子量気体の供給および低温かつ高圧力等のハイドレート生成のための条件を満足する限り、ハイドレートは場所を問わず地球上で普遍的に存在する。

メタンハイドレートの調査は温度・圧力等、ハイドレートが生成される条件を推定することを通じて探鉱が進められる。成分条件はこれ以外に水の塩分濃度、混合気体の成分等がある。図1・70において、低温・高圧側が安定領域（ハイドレートが安定に存在する領域）である。それに対して高温・低圧側は分解領域（ハイドレートが分解しガス化する領域）である。純粋なメタンの場合に比べメタンに塩類あるいはアルコールが含まれると生成条件はより低温・高圧側へ、一方でメタンに二酸化炭素あるいは硫化水素等がふくまれるとより高温・低圧側へ安定領域の境界は移動する。

地下深部の堆積物中の温度・流体圧は地温勾配と深度（ハイドレートが対象となる深度では一般には静水圧を仮定できる）より深く



ちきゅう 太平洋の水深1000mにある堆積物中のメタンハイドレートの掘削調査をする日本の地球深部探査船

なると地温勾配で決まる温度上昇が圧力上昇を上回るため、ある深度以下で安定領域から分解領域に状態が遷移する（図1・71参照）。この安定領域から分解領域に遷移する深度で、堆積物孔隙内の物質（液体、ハイドレート）の音響的な性質が大きく変化する。資源調査のための音波探査の手法はこの変化を検知するのに用いることができる。

引用文献 「メタンハイドレート探査」 物理探査学会編「物理探査ハンドブック」PTB-988、「不都合な氷メタンハイドレート」日経サイエンス2015年1月号PTB-84

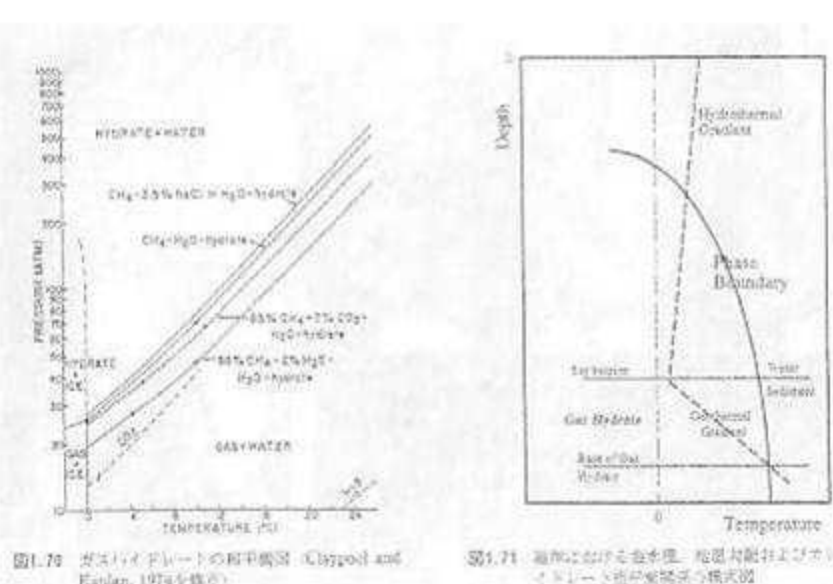


図1.70 メタンハイドレートの安定領域 (Chapoy and Ekin, 1974を引用)

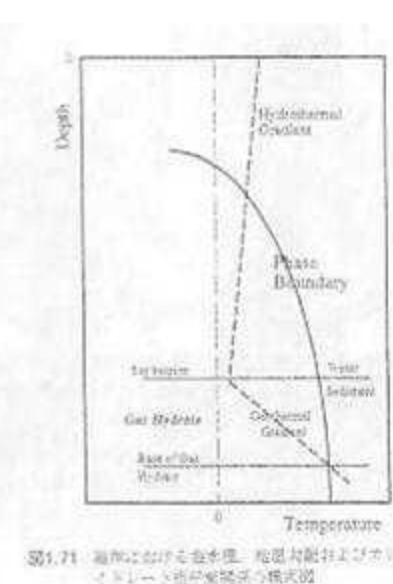


図1.71 海底下の温度・圧力勾配とメタンハイドレートの安定領域 (Chapoy and Ekin, 1974を引用)

第18シーズン

◆平成26年3月20日(木)

18:00~19:30

山田裕史
(岡山大学理学部数学科)



【第84話】
「自然数を分割する—算数
なのか数学なのか—」

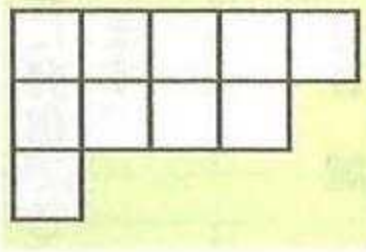
2014 Science Cafe in Shizuoka
サイエンスカフェin静岡

B-nest静岡産学交流センター
主催：静岡大学理学部

例えば自然数4は1+1+1+1
= 2+2 = 2+1+1 = 1+1+1+1と
自然数の和に書かれます。

つまり4

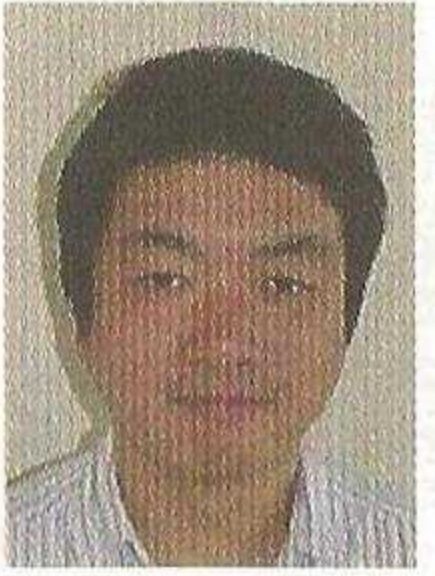
は5通りの方法で「分割」されま
す。これをP(4)=5と
書くことに
しましょう。
講演では一
般の自然数nの分割の個数
について調べることにしま
す。さらには「奇数ばかり
の分割」など制限を付けた
分割の個数にも言及しま
す。



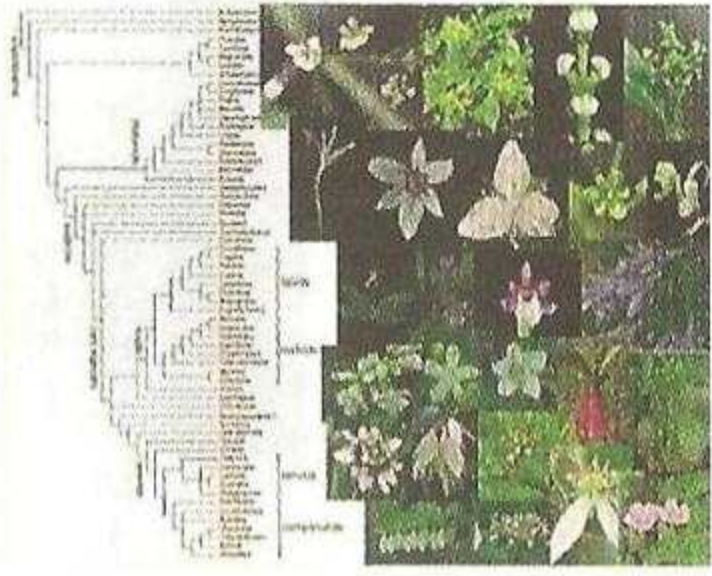
◆平成26年4月17日(木)

18:00~19:30

徳岡 徹
(静岡大学理学部生物科
学科)



【第85話】
「被子植物の分類と進化」



私たちの見の回りにはた
くさんの植物があります。
系統分類学はこのたくさん
の植物を一つ一つ見分け、
進化の順に整理してみまし
た。近年の遺伝子情報を使
った進化の解析とともに、
花の「かたち」の進化につ
いて紹介します。

◆平成26年5月29日(木)

18:00~19:30

森下祐一
(静岡大学理学部地球科
学科)



【第86話】
「金、プラチナの輝き：レ
アメタルは地球のどこにあ
る?」



今話題のレアメタルなど
の金属は産業や日常生活で
よく使われますが、原料と
なる鉱物資源は地球のどこ
にあるのでしょうか? レ
アメタル探しのため、鉱物
資源誕生の仕組みをSIMSな
どの最先端分析装置を使っ
て科学的に解明します。

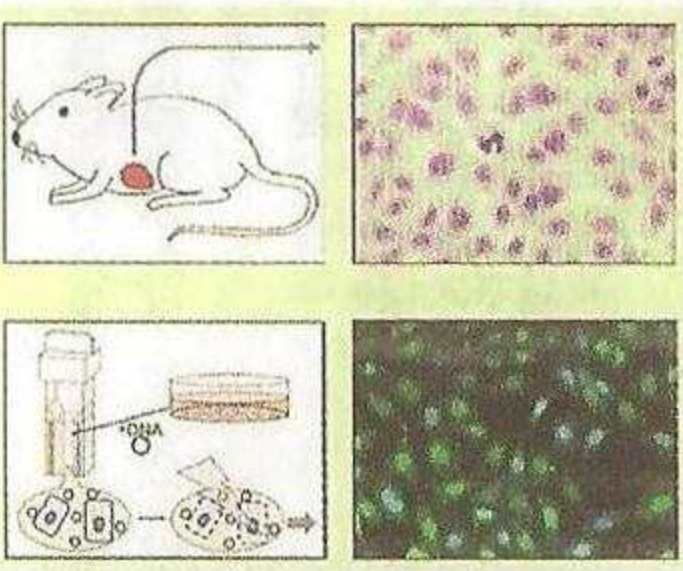
◆平成26年6月19日(木)

18:00~19:30

小池 亨
(静岡大学理学部生物科
学科)



【第87話】
「細胞工学のスミメ培養
細胞を用いた遺伝子機能の
解析」



生命科学の研究では様々
な培養細胞が用いられてい
ます。近年、それら細胞の
遺伝子発現を変える技術や
ゲノム編集技術が飛躍的に
発展しています。これら技
術の紹介と、培養細胞を用
いた遺伝子機能の解析例を
紹介します。

◆平成26年7月31日(木)

18:00~19:30

轟 泰司
(静岡大学農学部生物科
学科)



【第88話】
「小分子による植物のスト
レスマネジメント」



動物と違って動くことの
できない植物は、様々な環
境ストレスに耐えて生き延
びる術をたくさんもってい

第19シーズン

◆平成26年9月11日(木)

18:00~19:30

木村 榮一
(広島大学名誉教授、静
岡大学客員教授)



【第89話】
「研究を俯瞰する喜び —
「まことの花」求めて老活
中—」



※ 名張市広報対話室より画像使用許可済

私の研究人生は、「風姿
花伝」(室町時代の能楽達
人世阿弥著)の説く年代毎
の修行法・心得・美学が手
本です。「まことの花」た
る研究を目指し「稽古」に
励んできましたが、ついに
「麒麟きりん」も老いて驚
馬(ごぼ)に劣る。さりなが
らまことに得たらん能者な
らば花は残るべし」という
最終年代に至りました。そ
の「のこるべき花」とは何
か。老活中の薬化学研究者
のお話です。

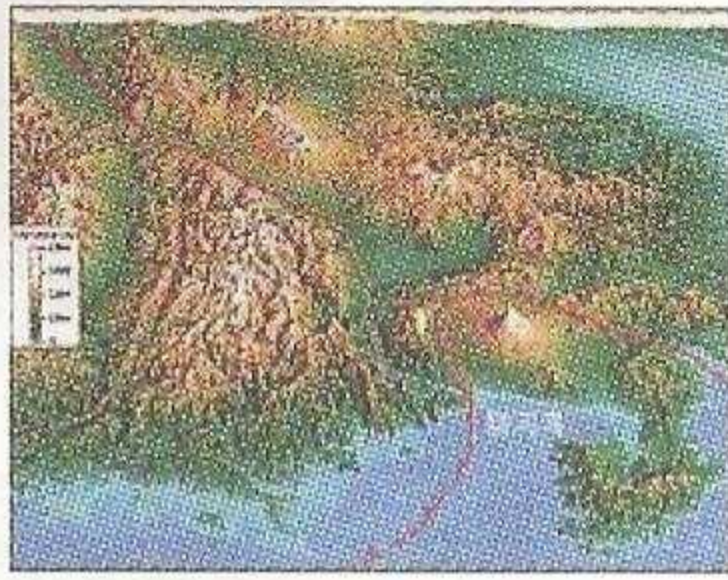
◆平成26年10月30日(木)

18:00~19:30

林 愛明
(京都大学大学院理学研
究科地球惑星科学専攻)



【第90話】
「駿河トラフ周辺域の活断
層と地震」



私の研究人生は、「風姿
花伝」(室町時代の能楽達
人世阿弥著)の説く年代毎
の修行法・心得・美学が手
本です。「まことの花」た
る研究を目指し「稽古」に
励んできましたが、ついに
「麒麟きりん」も老いて驚
馬(ごぼ)に劣る。さりなが
らまことに得たらん能者な
らば花は残るべし」という
最終年代に至りました。そ
の「のこるべき花」とは何
か。老活中の薬化学研究者
のお話です。

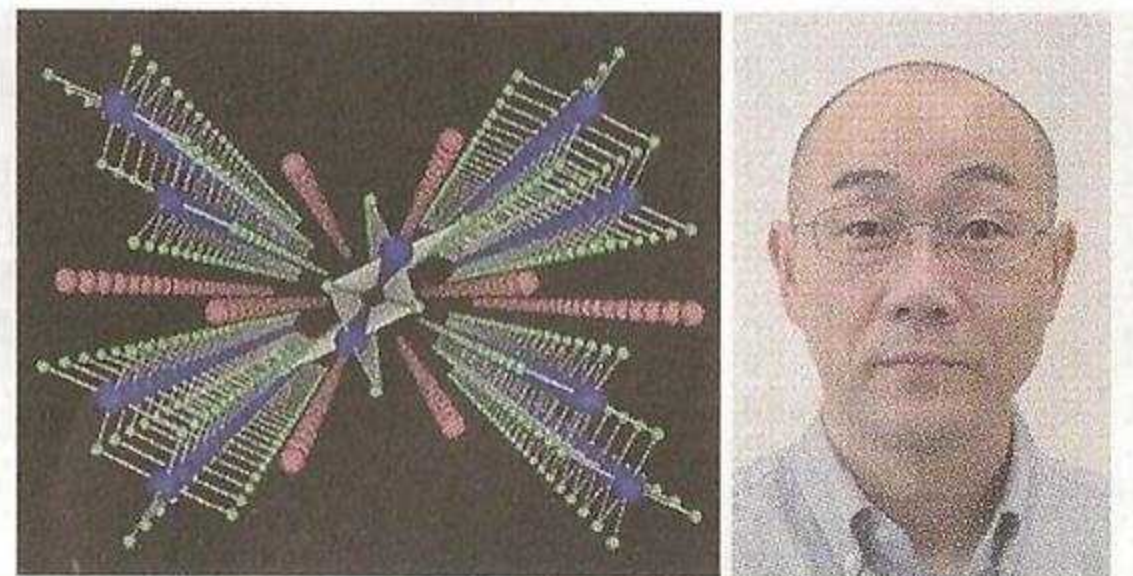
◆平成26年11月20日(木)

18:00~19:30

松本 正茂
(静岡大学大学院理学研
究科物理学専攻)

【第91話】
「物性物理学 — 物質の
中のミクロな世界へようこ

そ—」



物質は原子や分子が集ま
ってできていますが、原子
スケールでの性質が表に現
れることがあります。物質
の中に潜むミクロな世界と
その性質について、基礎と
なる量子力学を用いて分か
りやすく解説します。

◆平成26年12月18日(木)

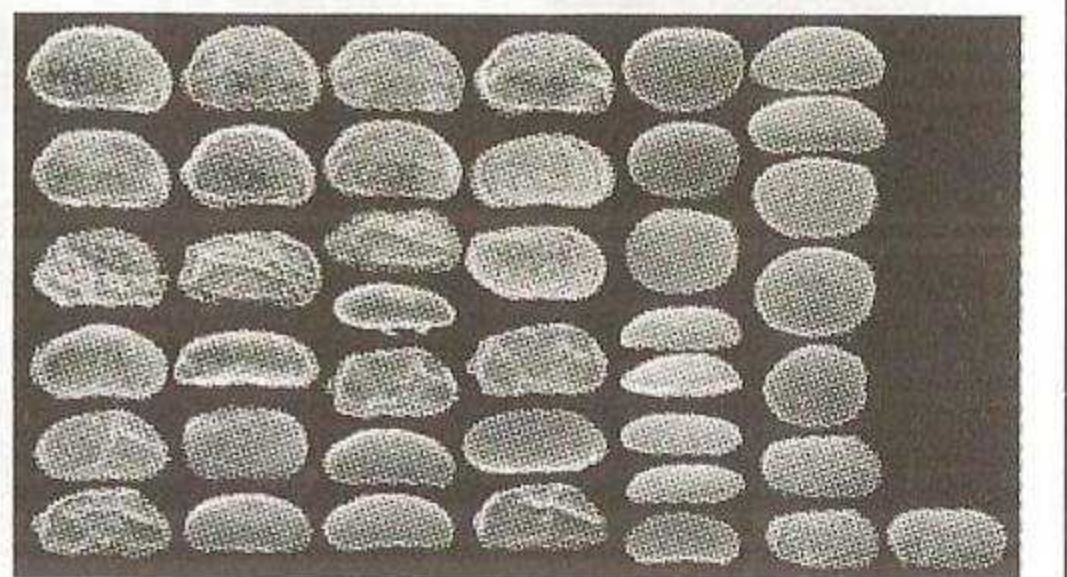
18:00~19:30

塚越 哲
(静岡大学大学院理学研
究科地球科学専攻)



【第92話】
「生物の多様性と分類学 —
名づけと認識をめぐって

「生物の多様性」が現代
ほど強調されている時代は
ない。しかし私たちの「知
る」生物種は、実態の5%
程度かもしれない。「種を
知る」という所作は具体的
にどういうことなのか、分
類学を基礎とした多様性を
認識するシステムについて
紹介します。



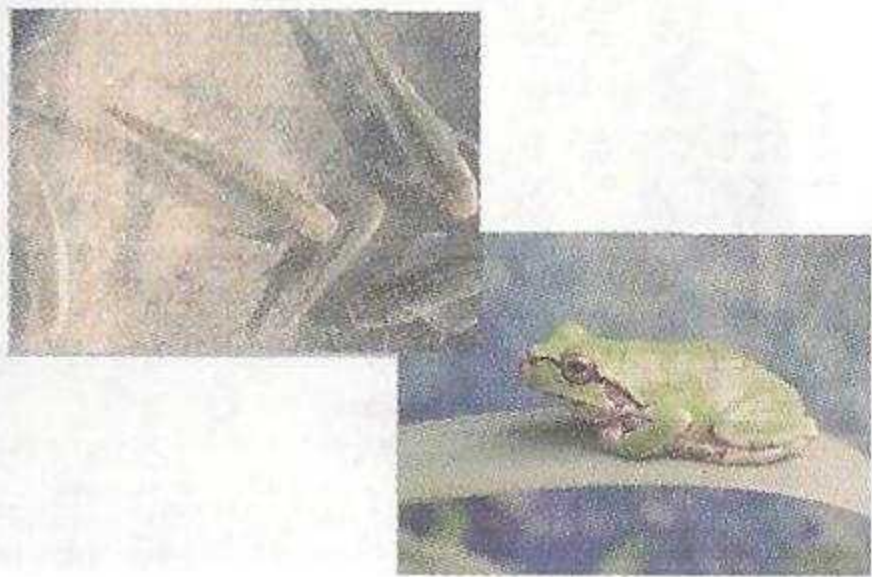
◆平成27年1月29日(木)

18:00~19:30

鈴木 雅一
(静岡大学大学院理学研
究科生物科学専攻)



【第93話】
「動物の多様な環境適応」



生物は進化の過程で、
様々な環境に適応して、命
をつないできました。その
適応様式をのぞいてみま
すと、複雑ですが巧妙なしく
みで行われていることが分
かります。動物の多様な環
境適応の様子について紹介
します。

静岡大学では、平成27年度から開始するアジアブリッジプログラム(ABP)にあわせて、同年10月から5年間の特定基金を設置します。

この基金は、アジアを中

「静岡大学グローバル人材育成 アジアブリッジプログラム特定基金」

静岡大学 アジアブリッジプログラム(ABP-SU)
開設記念講演会
平成26年 7月11日(金)
会場 ホテルアソシア静岡3F「橘」

14:30~15:00 受付
15:00~17:00 開演
17:00~17:30 質疑応答
17:30~18:00 閉会

講演 文部科学省
大臣官房国際課長
今里 謙氏

産学官連携を軸にしたオール静岡によるグローバル人材育成

静岡大学 アジアブリッジプログラムとは
国際化を推進する「グローバル人材育成」を目的として、海外の大学等との教育機関及び企業との連携の下、部局横断で取り組むグローバル教育で、全学的な観点から各組織を有機的に連携させ、アジアを中心とする海外で活躍するグローバル人材の育成を戦略的に推進するために開講されます。

STEP1 海外大学・企業との連携
STEP2 海外大学・企業との交流
STEP3 海外大学・企業との共同研究

アジアブリッジプログラム開設記念講演会

静岡大学は平成26年3月にグローバル改革推進機構を設置し、石井潔機構長のもとでアジアブリッジプログラムを実施することとなりました。当プログラムは、海外の大学等の教育機関及び企業との連携の下、部局横断で取り組むグローバル教育で、全学的な観点から各組織を有機的に連携させ、アジアを中心とする海外で活躍するグローバル人材の育成を戦略的に推進するために開講されます。このプログラムの発展を祈念して、左記のとおり開講記念講演会が開催されました。またそれに引き続き記念祝賀会が催されました。

記
開設記念講演会
期日 平成26年7月11日(金)
時間 午後3時00分から午後5時00分
会場 ホテルアソシア静岡「橘」(3階)
講師 文部科学省今里国際交流課長

- 具体的には、平成27年度から受け入れを開始するアジアブリッジプログラムの外国人留学生への学習奨励金の支給、同プログラムの日本人専攻学生の海外インターンシップの渡航経費、交換留学奨学支援、海外に展開している県内企業や教育機関等とのシンポジウム実施経費、新入生獲得のための経費として活用します。
- 事業内容は、以下のとおりで、現在詳細の実施計画等を策定中です。
- 1 学生支援
(基金全体の80%)
 - ① ABP留学生(学士、修士)への奨学金
 - ② ABP日本人学生(学士、修士)海外研修インターンシップ渡航費用
 - ③ ABP日本人学生(学士、修士)交換留学奨学支援
 - 2 大学全体の国際事業
(基金全体の20%)
 - ① 国際シンポジウム実施経費
 - ② 留学フェア参加経費
 - ③ 理学同窓会としても、アジアと静岡の発展に貢献できる優秀な人材を静岡大学理学部および理学研究科に集め、その存在意義を高めることができるように、この基金事業に協力したいと考えています。基金設立後改めて皆様方のご協力をお願いいたします。
- ※ アジアブリッジプログラム(ABP)で育成する人材とは以下のようなものです。
- 1 地元企業等のニーズを
- 理解し、即戦力として活躍する人材。
- 2 「理工系の専門性+経営的思考、文系の専門性+理工学的思考」を持つ技術と経営を俯瞰する中核・中堅人材
 - 3 静岡とアジアの架け橋として、未来の産業社会をリードするイノベーション人材
- 会員の皆様へお願い
- 静岡大学理学同窓会では「静岡大学未来創成基金」を活用して、理学部教育支援をお願いしています。振込用紙の寄附目的の「□その他」の□欄に「エック□□□」を入れて、(一)内に「理学部教育支援」と記入のうえ、ご送金ください。振込用紙は、基金事務局から毎月集計した入金額が理学部あてに連絡されます。
- 理学部では、同窓会寄附講座や著名講師による特別講座、学生の研究支援の費用としての利用を考えています。支援金額は一口千円からです。皆様の暖かい支援をお願い致します。
- 振込用紙が必要なきは、理学同窓会事務局宛ご連絡いただければお送りいたします。
- 静岡大学理学同窓会事務局
TEL/FAX 054-238-3081
e-mail: scialm@ipc.shizuoka.ac.jp

静岡大学同窓会第1回静岡県交流会 ～講演・演奏と交流の夕べ～

少子高齢化とグローバル化の進展、財政悪化と社会福祉の再編、否応なく進む社会の変化にどう対応してゆくのか？
人口と企業が減り始めた静岡県、これからも「豊かな静岡」で在り続けるには、何が必要か？
そして、これらの課題に対する大学の役割は？



○演奏
'こころにしみる、清冽な箏の調べ！'
生田流の名手による箏演奏は、
別の時間を感じることでしょう！
静岡大学教育学部助教 長谷川 慎氏
(生田流箏曲演奏家)

演奏:長谷川 慎(三絃)、日吉章吾(箏)、長谷川道将(尺八)
長谷川 慎(生田流箏曲演奏家)生田流箏曲、地歌演奏家。2014年NHK邦楽オーディション合格。国内外でのリサイタル演奏活動を展開。東京芸術大学音楽学部邦楽科生田流専攻卒業、同大学院音楽研究科修士課程修了、東京芸術大学等講師を経て現職。
日吉章吾(生田流箏曲演奏家)1987年生まれ。静岡県函南町出身。東京芸術大学大学院卒。生田流箏曲正統社准師範。第1回利根英法記念邦楽コンクール一般の部最優秀賞他これまでに最優秀賞受賞多数。
長谷川道将(都山流尺八)1994年生まれ。神奈川県出身。2013年東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校都山流尺八専攻を卒業し、現在は東京芸術大学音楽学部邦楽科2年に在学。第1回国際尺八コンクールにて奨励賞及び邦楽ジャーナル賞を受賞



○講演
「ICTイノベーションと社会の変化、そして大学の役割！」
日本のICT(インフォメーション&コミュニケーションテクノロジー)分野の第一人者
東京大学大学院教授 須藤 修氏(人文12回経済)

東京大学大学院情報学環長、静岡大学人文学部卒(人文12回経済)
東京大学大学院経済学研究科博士課程修了・経済学博士(東大)
総務省情報通信審議会情報通信政策部会長(2011-)・地方公共団体情報システム機構代表者会議委員(2014-)はじめ様々な政府審議会、研究会で委員を歴任、学会では日本学術会議連携委員、情報文化学会会長(2008-)、国際CIO学会会長(2008-2010)など歴任。

◎静岡OBグリークラブと静岡Standard Harmony Jazz Orc もアトラクションで演奏

◆後援：国立大学法人 静岡大学 ◆主催：静岡大学同窓会静岡県交流会実行委員会

第一回東京支部 講演会・懇親会

理学同窓会東京支部(支部長藤岡換太郎君)の講演会・懇談会が平成26年5月24日にアルカディア市ヶ谷(私学会館)で盛大に開催されました。共に定年を迎えた、和田秀樹君(地球科学科・名誉教授)と奥野健二君(放射線科学施設・名誉教授)に記念講演をしていただきました。また、懇親会では、来賓の福島英夫(岳陵会静岡支部長と藤嶋善彦(浜松工業会東京支部長)にも挨拶を頂き、和やかな雰囲気の中で旧交を深めました。

和田秀樹君(地球科学科・名誉教授)講演要旨
「私の同位体地球化学の44年」
放射性炭素14Cで年代測定法を開発した。
14Cは生成と崩壊のバランスが保たれるため、安定した年代測定法のひとつとなる。14C年代測定法を用いて、富士山の噴火活動史や海洋深層水大循環を解き明かすことができた。
奥野健二君(放射線科学施設・名誉教授)講演要旨
「放射線科学施設での17年間」
放射線科学研究施設の「科



藤岡換太郎支部長



福島英夫岳陵会静岡支部長



奥野健二名誉教授(左)和田秀樹名誉教授(右)



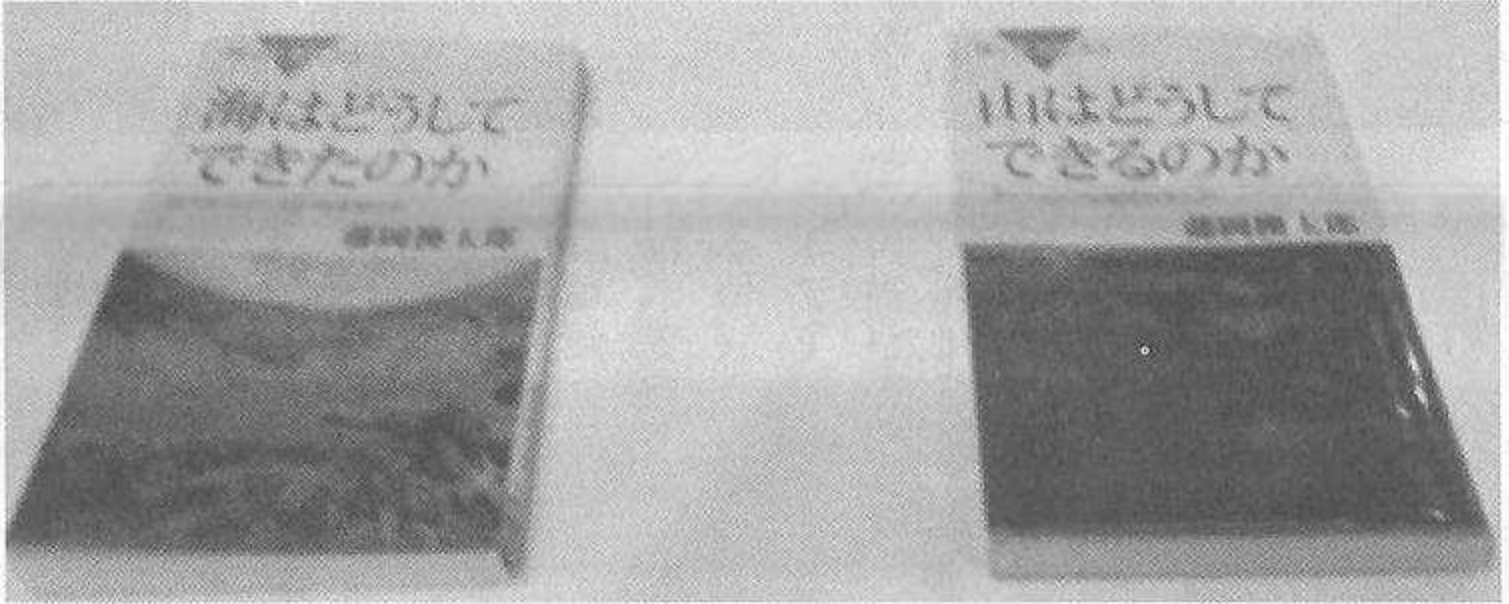
藤嶋善彦浜松工業会東京支部長

学は、発足後しばらくはケミカル・「化学」であった。ビキニ海域での水爆実験による第五福竜丸乗組員被災を契機に設立。
現在は、放射線や放射線核種を利用した基礎的応用的研究と安全な取り扱いのために必要とする科学全般にわたる教育を行っている。また、浜岡原発の安全審査など地方大学として地域への貢献も求められている。
石川 元理学部長から、出席できないことを伝えるメールにて、「はじめての東京での同窓会に、贈る言葉」をいただきました。
歴史を作りだす「生みの苦しみ」・・・45名の同窓生を迎えるの開催の運びとなり、お喜ばしいことと存じます。
何か事を起すにあたって、研究や教育の世界のみならずこの世界でも、同じような経緯を経ているもの。理学部育ちは、長い目で眺める力が殊の外、身につけています。「継続は力なり」。
努めて殻に閉じこもらないために、いまそしてこれから一層求められている人間力が育まれる場の一つだと考えています。・略：現役として時代を担っておられる同窓生が、年齢を重ねていくうえで、明日を生きる糧となることを願ってやみません。

静岡大学理学部同窓会会計報告(平成25年度)			
一般会計			
2014年3月31日			
収入の部	前年度繰越金	3,839,599	
	終身会費	3,200,000	
	寄付	5,000	
	記念誌発行	0	
	名簿代	0	
	受取利息	15	
	雑収入	0	
合 計			7,044,614
支出の部	印刷費	1,683,565	
	通信費	534,058	
	会議費・旅費交通費	219,845	
	事務用品費	4,832	
	送金手数料等	24,433	
	備品代	206,668	
	ホームページ作成	0	
	特別講座支援	450,000	
	学術集会等支援	0	
	事務手数料	180,000	
	総会費	0	
	全学同窓会負担金	0	
	慶弔費・その他	60,489	
	合 計		3,363,890
差 引 残 高			3,680,724
備考			
印刷費	料金後納はがき	155,190	
	封筒印刷(B5版/他)	128,793	
	会報印刷	713,475	
	卒業研究抄録集	617,925	
	その他文書印刷	68,182	
	デスクトップPC	146,280	
備品代	PCソフト、プリンタ修理他	60,388	
以上報告いたします。			
平成26年3月31日			
会計担当理事 浅野安人			
監査の結果、報告のとおり相違ありません。			
監 査		松山初男	
監 査		野口和廣	

同窓生の図書

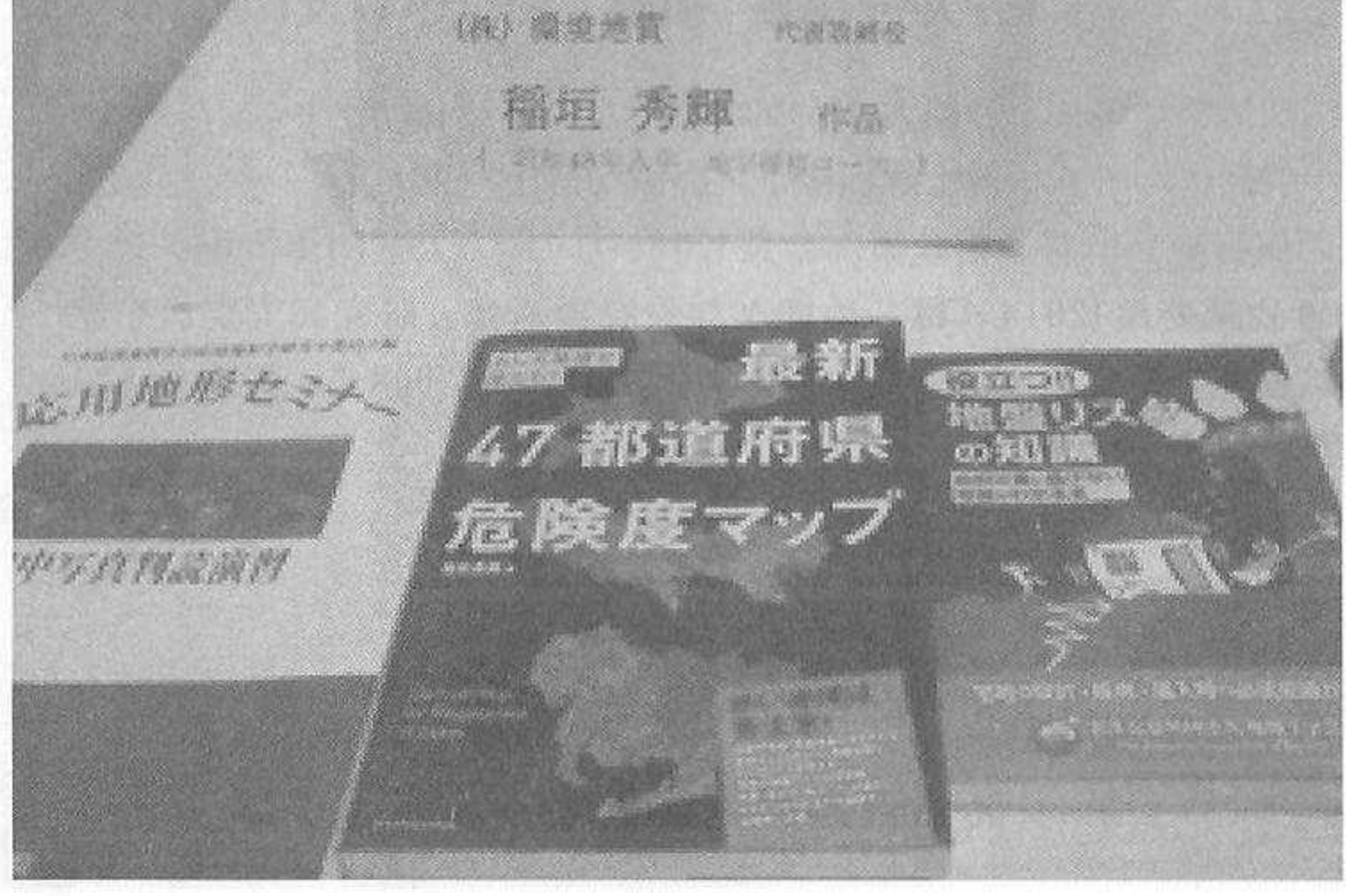
藤岡換太郎(S42 地学)



長谷川隆義(S41 生物学)



稲川秀輝(S46 地学)





望月勝海先生、モッちゃんのこと

杉村 新(20二理)(*2)

後輩の羽田忍氏(26理)「えつ」という話が出てきたりした。とにかく面白かった。ヌーボーとしていながら、生徒みんなのことがよく分かり、よく考えてくれた。

先生は、地質学科の出身であるが、鉱物学・地球物理学など、自然地理学特に地形学を含めた広い視野を持っておられた。地理学は人文地理までこなされていた。「どうしてですか」と尋ねたところ、「四高(現金沢大学)で地理学の講義を持っていたので」と謙遜していたが、先生の地理学はそんな程度のものではなかった。古今書院で出している「地理」という雑誌に南太郎というペンネームで、よく書評を載せていた。地理学会プロパーの人たちは、自分たちの仲間だけでこれだけの書評をかける人は、いったい誰だろうかと、という話が出て、南太郎とはナンダロウといったりした。これはミンナミタロウとも読める。

先生の講義は、生徒の間で、評判がよかった。同じことを表現するにも、変わった言い方をするので、聴くのが楽しかった。時々、先生の蘊蓄の広さ・深さを示すような

たが、ぼくにはまさに猫に小判であった。

富士山を眺めるのが大好きで、なぜ静岡市の道路を、富士山の方向に向けないのだからと嘆いていた。地域の細かな問題にも取り組んでいたから、お葬式の時、県知事が「静岡県のために、なくてはならない人物」と弔辞を読んだのも、うなずける。しかし、それを聞いたぼくはちよつと心外であった。先生は人類のためになくてはならない人物だと、思っていたからである。

研究上の代表作「大東亜地体構造論」(一九四三)は、当時の紙の配給事情を反映して「大東亜」というタイトルが付けられ、そのため戦後誤解された向きもある。しかし、この本は、二十五年後に地球科学に革新をもたらしたプレートテクトニクスの考えを先取りする、世界に誇れる労作である。アイデアだけだとけなす人もいるが、そのアイデアの元になった先生の膨大な専門知識は、余人をもつては、とても成し遂げられない学問体系をなしていた。「地体」は、現在考えてみるとプレートとめぐるものもろのことであり、「構造論」をいま風に言えばテクトニクスである。

先生は文学的なことにも造詣が深かった。水戸高校生(現茨城大学)時代に、一度文学者を志したことがあった由である。泉鏡花の小説の話などしていただ

たが、ぼくにはまさに猫に小判であった。富士山を眺めるのが大好きで、なぜ静岡市の道路を、富士山の方向に向けないのだからと嘆いていた。地域の細かな問題にも取り組んでいたから、お葬式の時、県知事が「静岡県のために、なくてはならない人物」と弔辞を読んだのも、うなずける。しかし、それを聞いたぼくはちよつと心外であった。先生は人類のためになくてはならない人物だと、思っていたからである。

実によくできている教科書であった。ほとんどすべてのことが書いてあるのに、無味乾燥ではない。読み物でないのに、読み物の面白さが伝わってくる、不思議な教科書であった。もつとも、ぼくは興味があったから、そのように感じたのかもしれない。とうとうぼくは、先生に強く影響された研究者となつてしまった。

拙著「グローバルテクトニクス」(一九八七)のあとがきに、先生に捧げる言葉をしるした。

静高(現静岡大学)の課外活動の地質班では、英文教科書の輪講、野外見学、生徒の文献調査発表、先生のお話、と多彩であった。なかでも、一九四一年七月十七日(二十一日)の、富士川流域への見学旅行は、印象的であった。ぼくは日記をつけていないが、このときはフィールドノートをつけていて、それが捨てられずにとつてある。先生の日記と、対照してみることができた(中略)。

文献調査発表の時は、例えばあらかじめ「有孔虫」というようなテーマをくれる。ぼくは、いろいろ調べた上とめて、みんなの前でしゃべる。ぼくのへたくそな発表を、先生は黙って聴いている。聴いているほ

か、そのように感じたのかもしれない。とうとうぼくは、先生に強く影響された研究者となつてしまった。拙著「グローバルテクトニクス」(一九八七)のあとがきに、先生に捧げる言葉をしるした。

しゃつた。ぼくはドキッと、これは一生忘れられない言葉となつた。

静岡高等学校 創立八十周年記念 英蓉軒日録抄 望月 勝海 旧制静岡高等学校 同窓会 編集発行

☆上記の書物の編集委員の序文を転載する

・本文をお読みいただくためのガイド・

(*1)杉村 新 旧制静岡高等学校教授 静岡大学文学部部長 (*2)元神戸大学教授

理学同窓会寄付講義 講師募集

大学院理学研究科の講義のひとつとして、理学同窓会寄付講義が開催されています。この講義は、研究機関や企業・中学校等で活躍中の理学同窓会の会員により、企業や研究所、教育現場などで今何をしているのか、働く現場ではどのような人材が求められているのか、また大学院・学部でどのようなことを学ぶべきかなど、在学中の経験を踏まえおおよそ60分から90分講演をしていただきます。後輩のために先輩としての貴重な経験談をしてくださる方を募集しています。学科・経歴・年齢などは問いません。奮ってご応募ください。

平成27年度担当教員 化学科 加藤知香 静岡大学理学同窓会事務局 scialm@ipc.shizuoka.ac.jp TEL/FAX 054-238-3081

理学部・理学系大学院への教育支援の寄付のお願い

理科教育の重要性が声高に言われるようになった昨今ですが、同窓生の皆様におかれましては、各分野で活躍のことと思います。静岡大学においても教育学部の定員削減に伴い、理科学部志望の学生を受け入れるなど理学部の重要性は高まっています。しかしながら、文部科学省の基礎研究への配分が少なく、かつ実績重視のため、教育にかかる父母の負担が高くなっているのが現状です。実験や実習を減らし、パソコンによるシミュレーションを行うことでは、未来の科学者を育成することは困難です。静岡大学の理科教育の向上をはかり、予算獲得の実績を作るためにも、同窓生の皆様方のご支援が今必要です。

会報28号(平成25年3月発行)にて会員の皆様にお知らせした「静岡大学未来創成基金」の口座を利用し理学部・理系大学院(大学院理学研究科・創造科学技術研究科)への教育支援・研究支援などが行えます。ゆうちょ銀行の振替口座払込票(加入者名:国立大学法人静岡大学、口座番号:00800-7170290)(※)を「ご利用になり、寄付目的欄の「□その他」の欄に

理学部・理学系大学院への教育支援の寄付のお願い

チェックを入れ(理学部教育支援)または研究支援とご記入の上ご送金ください。金額は千円から結構です。なお、お手許に振替口座払込票(※)がない場合は同窓会事務局までご一報ください。事務局よりお送りします。

同窓生諸氏の暖かいご支援を重ねてお願い申し上げます。

理学研究科長・理学部長 塩尻信義 理学同窓会会長 浅野安人 静岡大学理学同窓会事務局 静岡市駿河区大谷888 静岡大学理学部C205-1 scialm@ipc.shizuoka.ac.jp TEL/FAX 054-238-3081

第2回静岡大学SSC委員会・未来創成基金委員会 平成27年3月4日(水) 静岡大学事務棟別館2階 議題

1.サポーターズクラブの実績・決算報告 2.サポーターズクラブの予定・予算案 3.サポーターズクラブの表彰規定の見直し 4.未来創成基金の実績・決算報告 5.未来創成基金の予算案 6.アジアブリッジプログラムの特定基金の設立 7.農学部支援特定基金の延長(2年間) 8.その他として、用途指定の寄付金についての取り扱いの確認

事務局だより

○昨年は、御嶽山の噴火や小笠原諸島の西ノ島の溶岩の流出による拡大など、地殻変動による大きな事象が三入になりました。火山列島である日本に住んでいるからこそ、身近に感じる方も多

○昨年は、御嶽山の噴火や小笠原諸島の西ノ島の溶岩の流出による拡大など、地殻変動による大きな事象が三入になりました。火山列島である日本に住んでいるからこそ、身近に感じる方も多

○昨年は、御嶽山の噴火や小笠原諸島の西ノ島の溶岩の流出による拡大など、地殻変動による大きな事象が三入になりました。火山列島である日本に住んでいるからこそ、身近に感じる方も多

○昨年は、御嶽山の噴火や小笠原諸島の西ノ島の溶岩の流出による拡大など、地殻変動による大きな事象が三入になりました。火山列島である日本に住んでいるからこそ、身近に感じる方も多